

令和3年3月31日

愛国学園保育専門学校
校長 松坂征重 殿

愛国学園保育専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①野崎 郁弘（パブリックコンサルタント株式会社専務取締役 元会計検査院官房審議官 元青山学院大学客員教授）
- ② 谷 聖司（上一色幼稚園園長）
- ③鎌田 育栄（卒業生 なでしこ保育園副園長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

コロナ感染症対策もあり、評価委員に事前に自己評価報告書を配布し、委員の事前調査と質問項目の送付とその回答を受けた後、令和3年3月18日に会議を開催した。

3 学校関係者委員会報告 別紙のとおり

別紙

I 重点目標について

1 重点目標について

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う影響はあったものの重点目標に掲げた3事項について、各目標に沿った対策を着実に実施しており、目標と計画の達成状況は的確に示され、適切に評価されている。このような取組は今後も継続的に実施していただきたい。

各重点目標に関しての意見は、次のとおりである。

重点目標1の教育、研究における事項について、計画に従い適切に実施されていることは学校側の説明で理解できたが、個別の各事項の目標に対する達成状況と取り組むべき課題について、その対応関係がより明確になるよう構成、記述を検討してもらいたい。

重点目標2の学生の募集活動に関する計画について、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う影響により説明会の中止、オープンキャンパスの回数削減など相当な影響を受けていることはやむを得ないものと認められる。そのような中でもホームページをリニューアルし、内容の充実を図るなど目標達成に向け学校一丸となって取り組んでいる努力は評価できる。しかしながら、昨今の募集の実績を踏まえると、努力に見合った成果が得られるようにより幅広い志望層の掘り起こしを図るなど定員の確保に向けた募集対策の課題分析、再検討が必要と思われる。

重点目標3のその他の事項について、昨年度と比較して行事予定の記述が充実し、改善が図られている。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う影響により、一部実施できなかった項目もあるが、そのような状況も含めて理解できるなど評価報告としては適切な記述となっている。

II 各評価項目について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

教育理念である「親切・正直」「女子の職業教育」は明確にされており、それに基づく方針や目標設定があり、目標達成のための具体的な取り組みが行われている。一方、取り組みの中で見つかった課題への解決方法は、やや具体性に欠けるところがある。今後、より具体的な対策案を立案・実施していくことを期待する。

基準2 学校運営

運営方針、事業計画が明文化され、全教職員へ周知徹底されており、歴史ある学校法人として組織的運営が適切に行われている。また、意思決定システムについては明確に確立されている。

上記の運営状況を前提として人事・給与制度については、良質な教員を確保するための処遇改善、情報システムについては、学校の ICT 環境整備が進む中で一層の充実を図るよう期待する。

基準 3 教育活動

理念・目的・育成人材像に沿って教育課程の編成が行われ、計画的な教育活動が行われている。また、卒業時に幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の二つの資格を取得することを踏まえ、業界のニーズに沿った教育活動を行っていることが窺える。

上記の運営状況を前提として検討すべき点として、以下を挙げる。

- ・ ICT の教育環境の体制整備について具体的な説明を記述されたい。
- ・ 教育方法・評価において、具体的な評価に基づく課題があれば示されたい。
- ・ 成績評価・単位認定等において、具体的な課題があれば示されたい。

基準 4 学修成果

卒業生全員が資格・免許を取得し、就職率は、100%となっているなどの状況は、良好な学修成果の帰結として大いに評価できる。

また、卒業生の社会的評価（卒業生の就職先の評判など）を整理、分析して、その結果を教育活動の改善に取り組むとする姿勢も意欲的であり、大いに評価できる。

基準 5 学生支援

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学生の健康管理は重要な課題となっているが、このことを十分に認識して適切な対策を整えていることは評価できる。本校は、直接の授業を重視する理念を継続していることから、今後とも万全の体制を継続していただきたい。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う影響により、課外活動としてのボランティア活動に制約が生じているのはやむを得ないが、本校のボランティア活動は高い評価を受けているとのことなので、状況が改善すれば引き続き実施されることを期待する。

退学率の低減に関し、きめ細かく可能な限りの支援体制を強化している努力は評価する

が、さらに一層の工夫を期待する。また、入学後に進路上のミスマッチに気づく学生に対する支援の在り方について、引き続き検討が必要ではないかと思料される。

基準6 教育環境

教育環境は、施設面・設備面については、良く整備されている。また、図書室の充実が図られたことも評価できる。学外実習も新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う影響を受けつつも適切に実施していることは評価できる。インターンシップ制も直ちに導入できないが最近の社会の動きを見ると将来的に検討してもよいかもしれない。

基準7 学生の募集と受入れ

ホームページを充実させるなど学生募集活動は適切に実施し、努力していることは確認できたが、ここ数年、定員割れが続いていることは事実なので、その原因を分析し、課題を抽出して改善に取り組むことは大事であると思料される。そのことによって退学率の改善なども結果的に図られるのではないかと思われる。学納金の額は妥当と思われる。

基準8 財務

学園全体の財務基盤は安定している。ただし、保育専門学校単体での収支はマイナスとのことなので、経常費補助金のある大学等と異なり、学生の納付金が収入の主体である本学校の特性からみても学生の確保は喫緊の課題だと思料される。

基準9 法令等の遵守

常に、関係法令に関する最新の情報をチェックし、それに合わせた校内の諸規則を遵守しつつ、必要な改定を行うなどの取り組みが行われている。また、ホームページを充実し、必要な情報を公開するなど状況に即した対応が図られている。

引き続き、法令等を遵守し、適正な学校運営に取り組んでいただきたい。

基準10 社会貢献・地域貢献

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う影響を受け、制約が多い中ではあるが、学校の教育的資源を通して、社会貢献、地域貢献に努力している。国際交流は、学校の性格上無理があるのは理解できる。有意義な活動を続けていることが周知されれば学生募集にも良い影響があると思料されるので、ホームページでその取組を紹介するなど、対外的な認知に関し、一層の工夫に務めることを期待する。